

東大道野草・豊里・豊里自然地区の整備の条件



位置図



1. 立地条件

【位置】大阪市東淀川区豊里地先（13.2k～14.0k）
【アクセス】大阪市営地下鉄今里筋線
だいどう豊里駅下車徒歩約5分
【後背地の条件】
用途地域：第1・2種住居専用地域、第1種住居地域

2. 淀川における位置づけ

・淀川右岸 11k～13k 付近には、豊里のたまり群があり、周辺はヨシ原が生育する環境が保全されている。
・平成ワンドは、城北48番、49番ワンドの埋め立てによる代替ワンドとして豊里地区に新たに整備されたワンドである。

3. 上位計画における位置づけ

【淀川水系河川整備計画】(H21)
・水辺や河原の保全・再生
水辺に棲む生物の生息・生育・繁殖に重要な水陸移行帯等の良好な水辺環境の保全・再生を図るため、堤防の緩傾斜化や河川敷から水辺への形状をなだらかにする切り下げ、ワンドやたまりの整備を実施する。(中略)

① 干陸化した河川敷の切り下げ等によりワンド群やワンド・たまりの保全・再生を実施する。
淀川：赤川地区、城北地区、豊里地区、庭窪地区、唐崎地区（芥川合流部）、前島地区（水制エも整備）、牧野地区（水制エも整備）、楠葉地区、水無瀬地区

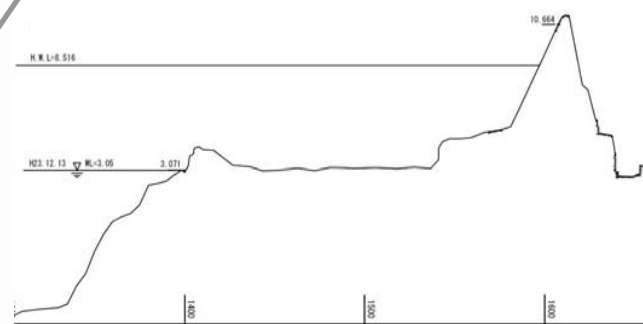
【淀川河川公園基本計画】(H20)

・自然環境保全・再生ゾーン
干潟や砂州、ヨシ原、ワンドなどの淀川特有の自然環境を有する地区などにおいて、河川敷の切り下げ、干潟やワンドなどの保全・再生など地区の特性を踏まえながら生物の生息・生育の場の保全・再生を図るゾーンとする。自然環境の保全・再生を優先し、人の立ち入りを抑制するなど利用調整を図る。
利用及び管理運営のための施設については、自然環境の保全・再生を図る上で必要な副園路及び安全施設を除き、設置しない。

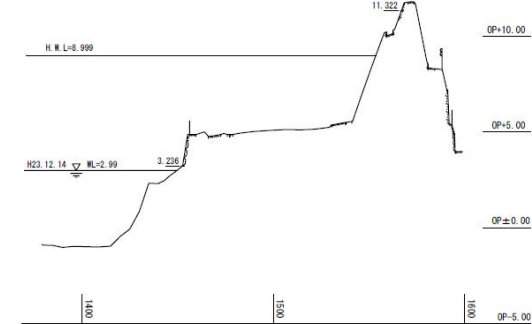
4. 地形条件

・高水敷の標高が河岸部よりも低いため水がたまりやすく、大小の“たまり”、湿地が広範囲に残されている。
・高水敷と水面との高低差は約2.5mあり、12.6k～13k付近にある水際に沿った未舗装の管理通路部分が高水敷よりも高くなっている。

断面A
(12.4k)



断面B
(13.6k)



5. 動植物の状況

・植生：オギ群落、ヨシ群落が広く分布している。木本群落であるシンジュ群落も比較的広く分布している。水際及びたまり部には特定外来植物が優占するホテイアオイ群落やアゾラ群落が分布している。また、河川攪乱性の種であるミコシガヤ、カワジシャ、タコノアシ、湿地性の種であるサデクサ、ハンゲショウ等が確認されている。
・哺乳類：重要種ではカヤネズミが草地の広い範囲で確認されている。
・魚類：重要種では止水～緩流域を中心に生息するギギ、ゲンゴロウブナ等が確認されている。
・底生動物：重要種では琵琶湖、淀川水系に特徴的なイボカワニナ、ハベカワニナが確認されている。
・昆虫類：重要種では河川のヨシ原に生息するジュウサンホシテントウ、エサキアメンボ、抽水植物が多い池沼に生育するマルタンヤンマ、緩やかな流れに生息するベニイトトンボ等が確認されている。
・鳥類：重要種であるオオヨシキリは広い範囲に生息している。その他水辺に生息するカムリカイツブリ、草地に生息するセッカ等が確認されている。

6. 整備の経緯

【豊里地区（開園済）】

・昭和50年（1975年）施設広場地区として開園
・公園施設：テニスコート（ハードコート）4面
・更衣室（男・女）1棟、芝生広場、駐車場72台
・低水護岸側に府道大阪吹田自転車道線が整備

【豊里自然地区（未開園）】

・太平洋戦争時にバクダン池が形成された。
・かつて防火帯の設置やヨシ焼きが行われていた。
・昭和62年～平成2年 平成ワンドが整備された。

【東大道野草地区（未開園）】

・昭和52年（1977年）淀川で第一号となる人工ワンドが整備された。

7. 利用状況

【豊里地区（開園済）】

・年間利用者数 約21万人（平成24年度）
・うちテニスコート利用者数 9,800人/年
・一時使用内容：東淀川区健康マラソン大会
中学校の校内マラソン大会

【豊里自然地区（未開園）】

・清掃活動を毎年実施（河川レンジャー活動）
・平成ワンド・豊里ヨシ群落地における外来生物駆除活動（H24年度、同上）
・平成ワンドでは魚釣りが盛んである
“たまり”における魚釣り（魚釣り台の不法設置が多数あり）
・自由使用グラウンドが2面存在する
・ホームレスによるブルーシート、不法耕作が存在する